



TITLE:

行水の後に

AUTHOR(S):

英子

---

CITATION:

英子. 行水の後に. 天界 1921, 1(11): 208-208

ISSUE DATE:

1921-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159621>

RIGHT:

である。例へば金星の軌道は先づ橢圓であるから上の如き式であたへられる。其精しい形を知ろうと思へば此の方程式の五個の係数を確定せねばならぬ。其の爲には(さ)に五組の値を取らせて五つの聯立方程式を立てたらよい。(き)に五組の値を取らせることは、遊星の五つの異つた位置を知る事である。其れに依つて軌道が定るのである。拋物線の時には或る條件の爲めに四個の點を知ればよい。

終 (十年七月)

## 行水の後

炒りつける様なひるまの苦熱を、行水に洗ひ落して人は皆、楽しい夕涼みに餘念もございません。工博のサーチライトが涼しい光をなげつけて居ります。

やうやく怠つた病の身を東の窓近くよこたえて、私はなくなつた子供の事等を思ひつゝぼんやりと空

を眺めて居りました。

つと、目をかすめて森の木の上のところを、青白い球が尾を引いて北から南に飛びました。人魂?

然しそれは珍らしく大きな流星でございました。時は八月十一日午後十時二十分場所はペガススと白鳥座の中ほどから鷲座の方向へ——  
尾は五秒位で消えました。

六七歳の頃田舎家の廣い庭へ大きな涼み臺を持ち出して、祖父母や弟達と、天火をみた私をなつかしくしのびました。

天火とは天にすむ人が、大きな吊りランプをさげて通るのであらう。その人は雷さんの様でもあり、もう少し地上の子供にとつてはおぢさん位のしたしみのある人の様にも思つて居りました。(英子)